

事業展開と主な製品

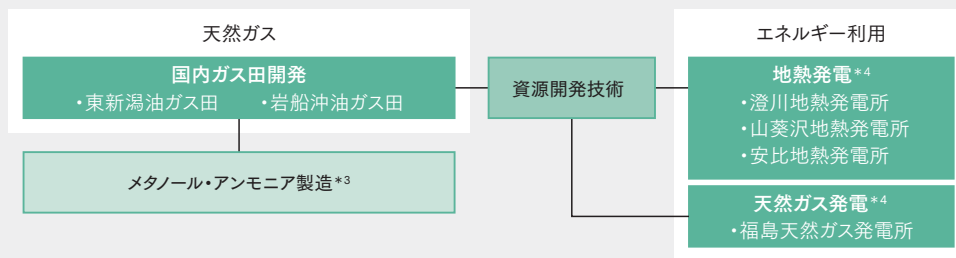
機能化学品

無機化学品 半導体向け 洗浄剤を 中心に展開	過酸化水素 エレクトロニクスケミカルズ(EL薬品) 超純過酸化水素 ハイブリッドケミカル
	世界シェア 1位 超純過酸化水素 海外半導体メーカーの旺盛な需要に応え、顧客の成長に見合った供給能力を確保。また顧客に近接した開発拠点をグローバルに構築し、スピード感を持って課題解決に資する製品を継続的に提供。
電子材料 半導体パッケージ 基板材料の トップメーカー	シアネートモノマー BTレジン BT系製品 銅張積層板(CCL) プリプレグ OPE誘導体
	世界シェア 1位 BT系製品 半導体業界の旺盛な需要に確実に対応。エンド顧客を意識したマーケティング体制を整備・強化し、市場のハイエンドからミドル領域を中心に高機能品を展開。
	世界シェア*1 1位 OPE誘導体 最先端の半導体パッケージ基板やチップを搭載する高多層マザーボード向けで、電気信号の損失を抑えつつ、配線間の埋め込み性や高い耐熱性・信頼性という市場のニーズに応え、技術進展に貢献しています。
*1 AIサーバー CCL素材として	
光学材料 世界最高の 屈折率で スマートフォン 高性能化に貢献	原料モノマー 光学樹脂ポリマー (自社製造／外部調達)
	世界シェア*2 1位 光学樹脂ポリマー タイムリーな新規グレード開発と市場投入を継続し、スマートフォン分野での更なるシェア拡大を目指すとともに、IoT用途、センシング用途などスマートフォン以外のアプリケーションに向けた材料開発にも注力。
*2 高屈折樹脂(凹レンズ)として	
合成樹脂 エンジニアリング プラスチックを 展開	メタノール ホルマリン MXナイロン ビスフェノールA ユビタール®(ポリアセタール樹脂)(POM) レニー® (高性能ポリアミド樹脂) ポリカーボネート樹脂(PC) PC・シート PC・フィルム (外部調達)
	世界シェア 3位 ポリアセタール樹脂(POM) 生産・販売・開発をグローバルに統括した運営体制により、効率的な拠点運用と販売力の強化を進める。
	供給能力 3位 ポリカーボネート樹脂(PC) 高透明グレードなどの高付加価値品の比率を増やし、市況に影響されにくい体質への転換を進める。CO₂を原料とするPC量産技術についても研究を推進。
脱酸素剤 日々の食材から 電子部品、 医薬品に至るまで 幅広く展開	エージレス® RPシステム® ファーマキープ® アネロバック® 世界シェア 1位 エージレス® 食品分野でのマーケットの拡大を目指し、海外への拡販にも注力。また、医薬品・医療部品や電子部品、文化財保護といった非食品分野に向けても、品質保持のトータルソリューションを提供。

グリーン・エネルギー & ケミカル

エネルギー 資源・環境

国内天然ガスの
探鉱・開発技術を
応用展開



化学会社

Only
1

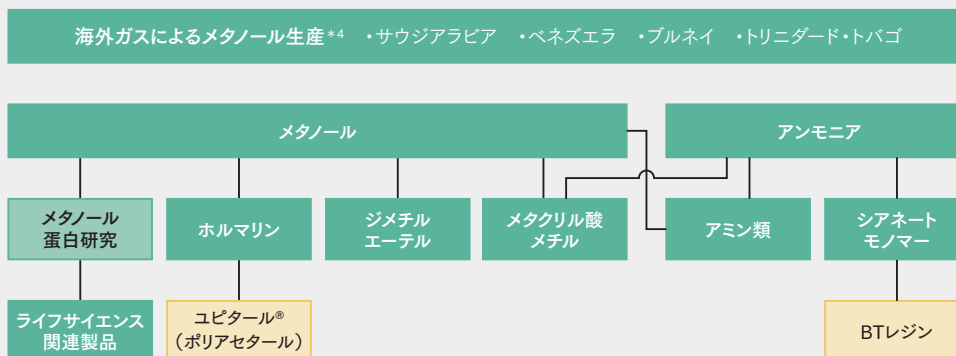
地熱発電

化学会社では異色とも言える40年以上の経験と実績を生かし、クリーンな電力の供給によってGHGの削減に貢献する。

*3 現在は新潟工場のメタノールパイロットのみ稼働 *4 合弁会社

C1ケミカル、 ライフサイエンス

日本で初めて
天然ガスを原料に
メタノールを製造



生産能力*5

3位

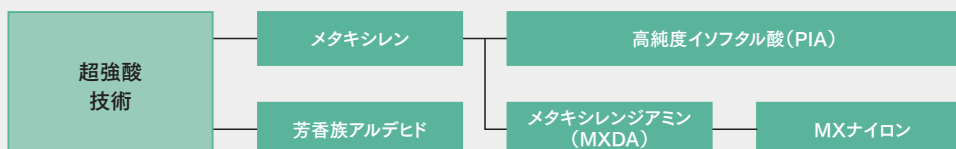
メタノール

積極的な海外展開と、製造プロセス・触媒技術・グローバルな販売網・誘導品の製造まで一貫して手掛けるビジネスモデルで競争力のある地位を構築。蓄積した技術・販売網を生かし環境循環型メタノールの事業化に向けて注力。

*5 当社技術を用いた関係会社の総計

ハイパフォーマン スプロダクツ

独自の技術で
競争力のある製品や
誘導品を製造



世界シェア

1位

メタキシレンジアミン (MXDA)

最大需要地である欧州でのプラント新設により、安定供給面・物流コスト面で競争力のある生産体制を構築。安定的に成長する従来のインフラ用途に加え、風力ブレード等の環境対応用途への展開も加速。



世界シェア

1位

MXナイロン

食品包装材分野において、品質保持期限延長や食品廃棄物削減の機運が高まる中、リサイクル可能な地球環境にやさしいバリア材としての地位の確立を目指す。車両軽量化のための金属部品の樹脂化といった川下展開も強化。



世界シェア

1位

芳香族アルデヒド

顧客からのニーズを反映した製品開発を継続的にを行い、用途の多角化・高付加価値化や顧客との更なる関係強化を目指す。



担当役員メッセージ

**顧客の様々なニーズに応え、
選ばれ続けるために、
技術を磨き、変化を先取りする力を
一層強化していきます**

山口 良三

取締役 常務執行役員
機能化学品事業部門担当

ポートフォリオ改革の方向性は、先端ICT領域の強化と、医・食領域の拡大

機能化学品事業にとって、「Grow UP 2023」の3か年は、計画策定時に想定した前提が大きく変化する中での舵取りとなり、その都度必要な軌道修正を行ったものの数値目標には届きませんでした。例えば、半導体需要の減速は、サプライチェーンの混乱もありましたが、スマートフォンをはじめ半導体が使われる最終製品の需要低迷が背景にあります。更に、米中対立から生じる世界経済の分断の影響もありました。

こうした状況を踏まえて「Grow UP 2026」では、変化にスピード感を持って対応できる強靱な事業体質が必要だと認識しています。そこでまず、2030年のありたい姿を

描き、培ってきた技術や顧客基盤を最大限に生かせる半導体・通信デバイスなど、成長が見込める先端領域の強化を継続していきます。同時に、安定した需要が見込める医・食など生活関連領域の拡大を、ポートフォリオ改革の一環として進めることにしました。特に半導体市場は、当事業部門にとって最重点分野です。タイでのBT材料の増産、米国・台湾などでのEL薬品の工場新增設など、これまでの能力増強の成果を、この3年で発揮していきます。世の中の流れを読み、顧客との対話を深めていけば、社会から必要とされる製品は自ずと生み出せるという確信を持っています。

グループ固有の技術に磨きをかけるために、組織に横串を通し、連携環境を構築

言うまでもないことですが、最終製品の市場を形成しているのは私たちではなく、私たちの顧客です。そのため、当社グループの製品が需要家の期待に応える価値を備え、選ばれ続けることが重要になります。長年にわたって顧客とのコンタクトを重ねて得られた知識と経験、そこから生み出された要素技術などは、財務諸表には直接表れない私たちの財産です。だからこそ近年、急速に進展する技術革新や新たな市場にも、追従できると自負しています。

しかし、顧客ごとに様々なニーズがあることから、これに応えるシーズもしっかり確保する必要があります。当社には様々な個性・特徴を持つ従業員が存在します。異なる個性や長年の経験・知識・技術などの蓄積、すなわちたくさんの点が集まって面となり、外部からの刺激を契機として、よりユニークな製品開発に結びつけていくことが、今後の市場変化を先取りする原動力になるはずです。

こうした考えをもとに、2024年4月に組織を一部改定しました。合成樹脂事業は、MEP(三菱エンジニアリングプラスチック)とともに製・販・技一体の「事業最適化タスクチーム」を編成して、PC事業等の課題を明確化しています。加えて、グループ会社横断でR&Dを推進する「技術推進グループ」を設置し、連携環境を構築しました。無機化学品事業においても、各グループ会社のプロセス技術や品質・安全に関する情報を、今回設置した「技術推進グループ」に集約し、グループ全体の技術力、安全力を飛躍的に向上させるとともに品質管理レベルを高めていくことにしました。グループ全体で組織横断的な動きを加速し、当社グループ固有の技術に磨きをかけることで、「Grow UP 2026」の達成に向けて成果の創出と持続的な成長を実現していきます。

基本情報

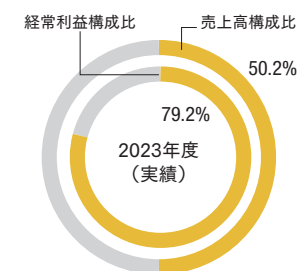
事業内容：無機化学品、合成樹脂、光学材料、電子材料、脱酸素剤

主なグループ会社：

泰興菱蘇機能新材料有限公司、SAMYOUNG PURE CHEMICALS CO., LTD.、MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.、MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.、巨菱精密化学股份有限公司、MGCフィルシート(株)、グローバルポリアセタール(株)、THAI POLYACETAL CO., LTD.、KOREA POLYACETAL CO., LTD.、三菱瓦斯化学工程塑料(上海)有限公司、三菱ガス化学トレーディング(株)、MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.、MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.、MGCエレクトロテクノ(株)、MGC ELECTROTECHNO(THAILAND) CO., LTD.、永和化成工業(株)、三菱エンジニアリングプラスチックス(株)、THAI POLYCARBONATE CO., LTD.、KOREA ENGINEERING PLASTICS CO., LTD.、エムジーシー大塚ケミカル(株)、菱電化成(株)、台豊印刷電路工業股份有限公司、(株)グラノプト、Samyang Kasei Co., Ltd.、MGCエージレス、AGELESS(THAILAND) CO., LTD.

従業員数：4,849名

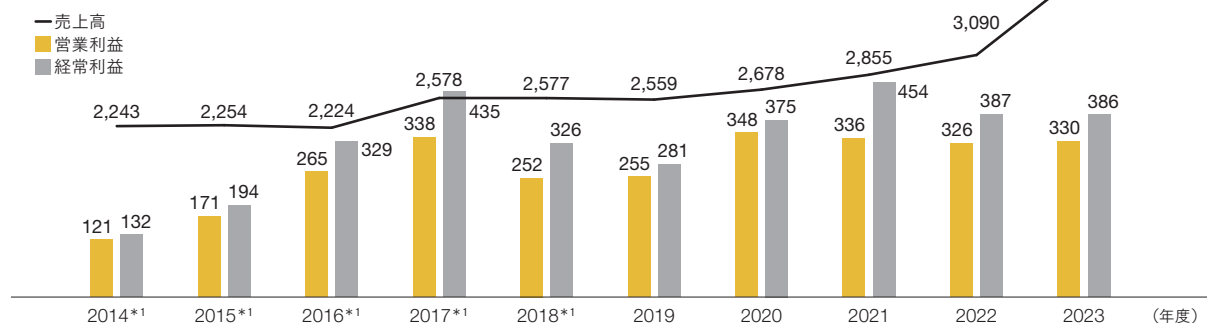
売上高・経常利益構成比



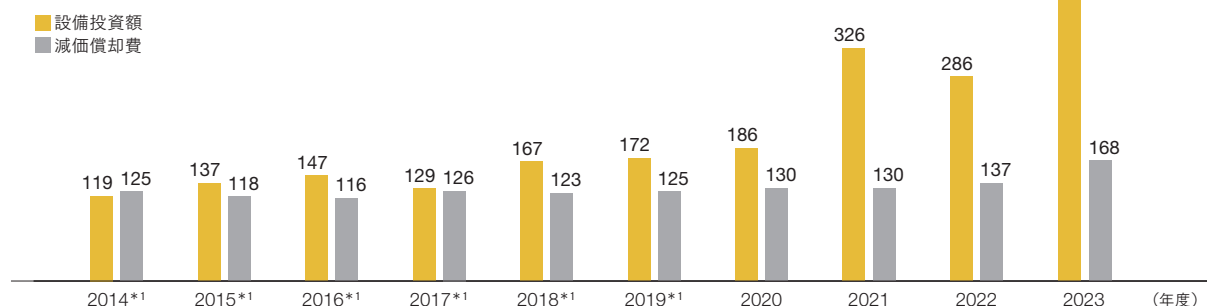
※構成比は「その他の事業及び調整額」を除いて算出しています

機能化学品事業の業績推移

売上高／営業利益／経常利益 (億円)



設備投資額／減価償却費 (億円)



*1 旧セグメント（機能化学品／特殊機能材）の合計値

前中期経営計画の振り返り

差異化事業	電子材料	BT材料は2022年度4Qを底に回復、再成長トレンドに。OPEの伸長もあり、計画を達成
	エレクトロニクスケミカルズ (EL薬品)	半導体市場減速の影響を受けたものの、世界トップシェア*2を維持。国内外で生産体制を強化中
	光学材料	販売数量は未達も、製品の高機能化、顧客訴求力の強化等に基づく競争優位性を維持。安定した収益を稼ぐ基幹事業へと成長
	ポリアセタール(POM)	市況上昇等により計画達成。GPAC*3を設立し、生産・販売・開発を一体的に運営する体制へ
基盤事業	PC系	中国生産拠点の採算は改善傾向にあるものの、供給過剰の厳しい市場環境は継続。MEP*4を連結子会社化も、効果発現は途上。シートフィルム事業の不振もあり、新中計では重点管理事業へ位置付け再構築を図る。

*2 超純過酸化水素として *3 グローバルポリアセタール *4 三菱エンジニアリングプラスチックス

機能化学品事業 全体戦略

2030年を見据えた価値向上のシナリオ

- ・成長性の高い先端分野(半導体・通信デバイス等)の事業強化を継続するとともに、安定性の高い生活関連領域(医・食等)の事業を拡大する。
- ・重点管理事業であるPC系についてU&P事業への移行を目指して経済的価値を向上させる。
- ・環境貢献型ビジネスの収益化による事業競争力の向上を進める。

「Grow UP 2026」計数目標

売上高	営業利益	経常利益	EBITDA
4,900億円	650億円	650億円	1,000億円

「Grow UP 2026」の製品群分類とアクションプラン

事業区分	製品群分類	主なアクションプラン
Uniqueness & Presence事業	無機化学品	半導体メーカーの新設・増設に沿って全世界で生産能力を増強し、高品質な製品を供給。
	光学樹脂ポリマー	スマートフォン以外の用途へ更なる拡大を図る。
	半導体パッケージ用BT材料	新規分野への参入により更なるシェアの拡大を図る。
	ポリアセタール	ダブルブランド(ユピタール、ケピタール)による世界展開。
	超高屈折レンズモノマー	製造設備新設により増大する需要に応え、バイオマス製品を展開する。
基盤事業	脱酸素剤	食品分野以外への拡販など事業構造の転換により収益性の向上を図る。
新規・次世代事業 (主な開発品)	リサイクルEP	環境負荷低減と収益性確保を両立する。
	新規BT積層材料	顧客からの高度化する要望に応えることで半導体基板材料市場をリードする。
	新規半導体洗浄液	新規材料や構造に対応する製品の開発により半導体の進化に貢献する。
重点管理事業	ポリカーボネート／シートフィルム	高付加価値戦略の徹底、生産・販売・研究開発体制の合理化等により、収益性の向上を図る。

重点管理事業の戦略

現状認識	「Grow UP 2026」における戦略
・供給過剰の厳しい需給環境が継続 ・2023年度からMEPを連結子会社へ。再編効果は途上であり、収益貢献は限定的で、収益性・資本効率性に課題 ・中国生産拠点は高付加価値分野に注力、採算が改善傾向 ・シートフィルム事業は販売不振により業績が悪化。MGCフィルシート大阪工場の撤退を決定 ・「CO₂ to PC」がGI基金に採択。プロジェクトを推進中	・MEP再編効果を最大限に発現。事業環境に合わせ、生産能力を見直し、コストを削減。販売・研究開発体制を再構築 ・差別化できる高付加価値分野へ更にシフト(2026年度に高付加価値品比率45%へ) ・シートフィルム生産拠点は3→2拠点へ集約し生販バランスを取る。新規用途向け開発強化・拡販を推進 ・「CO₂ to PC」PJの推進(パイロットプラント建設を検討)
PCの将来展望 ・PCの用途は自動車・電子機器・建築部材など多岐にわたり、市場は安定して拡大する見通し ・汎用用途は中国企業を含め供給者が多く、厳しい競争環境が続く ・高透明品等の高付加価値用途の拡大→当社の開発力・テクニカルサポート・販売網等が活用できるターゲット分野として注力(ex:足元で中国EV車ヘッドランプ用ライトガイド向け等で当社PCの採用が拡大) ・環境貢献に資する製品ニーズの高まり→バイオPC製造販売に向けたPCチェーン全体でのISCC認証を取得済。「CO₂ to PC」がGI基金に採択、プロジェクトを推進中	・事業環境に合わせ、生産能力を見直し、コストを削減 ・差別化できる用途に的を絞り、収益性を向上

エレクトロニクスケミカルズ

原材料調達リスクへの対策を講じながら、
より生産性の高いプラントを設計する

岡部 哲 — 無機化学品事業部 技術推進部長



当社が展開するエレクトロニクスケミカルズの中で、半導体の洗浄工程やエッチング工程に使用される、世界トップシェアの製品が超純過酸化水素です。国内外の生産拠点と連携し、需要家が求める先端ノードの品質規格に適合する高品質の製品を、安定的に供給しています。一方、ハイブリッドケミカルはカスタム製品であり、顧客ニーズに密着した研究開発力が強みとなっています。

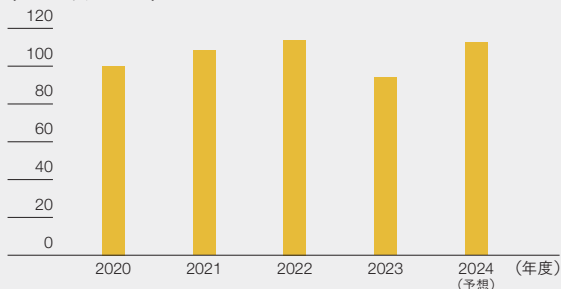
需要が拡大を続ける超純過酸化水素は、原材料の調達が重要施策です。そこで、様々な原材料の使いこなし・サプライヤーとの連携強化など、安定調達を可能にする戦略を立案しています。ハイブリッドケミカルでは、半導体の微細化が進みにくい状況下で、配線工程での開発機会が減速するリスクがあります。一方で、微細化以外の方法で性能の向上を図る先端パッケージ用途を、新規開発の好機と捉えています。

「Grow UP 2026」の3か年では、上記原材料調達

の戦略を実行しつつ、建設費、輸送費、原燃料費高騰に対応して超純過酸化水素の生産性の高いプラント設計を確立し、各拠点の増設を含む最適な生産体制として展開していきます。ハイブリッドケミカルでは、各国の研究グループが培った技術を集約し、先端パッケージ用途などの新分野に挑戦していきます。

EL薬品 売上高推移

(2020年度=100)



光学材料

新たなレンズ用途の開拓・多様化によって、
製品ポートフォリオを拡充していく

加藤 宣之 — 光学材料事業部 開発営業部長



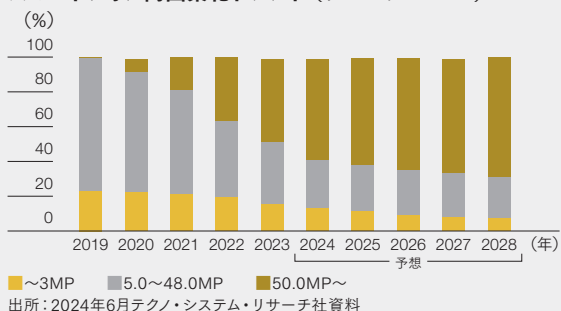
スマートフォンやVRデバイス、ドローンなどのカメラレンズ材料として広く採用されているのが、当社の光学樹脂ポリマーです。レンズの薄型化や画像の鮮明化に貢献できる性能はもとより、きめ細やかなカスタマーサポートを通じて、顧客満足度の最大化を目指しています。顧客の求めるより良い技術・材料を、研究部門と製造・販売・品質保証のメンバーで常時共有し、素早いアクションを追求しています。

当社の光学樹脂ポリマーが使用される分野は近年、ますます多様化しています。自動車の自動運転やXR(クロスリアリティ)など、高性能カメラが不可欠な分野の技術が進展していることも、当社にとって成長の追い風となります。

今後は顧客の要求への対応力に加えて、潜在的なニーズを引き出せる製品提案力も強化したいと考えています。そこで「Grow UP 2026」では、業績面の目標だけ

ではなく、用途の開拓・多様化によって製品ポートフォリオを拡充するという目標を定めました。将来予想が困難な時代ではありますが、カメラレンズから取り込んだ高度な画像情報が必要とされる分野は、拡大傾向が続きます。次の3か年も、高機能な材料開発と供給を通じて情報社会を支え、人々のQOL向上に貢献していきます。

スマートフォン高画素化トレンド (リアメインカメラ)





担当役員メッセージ

**カーボンニュートラルに資する
事業の確立に向けて従来とは異なる
アプローチに果敢に挑戦し、
新しい部門名称に込めた思いを
体現していきます**

赤瀬 英昭

取締役 常務執行役員
グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門担当

将来の成長を見据え、布石を打った3年間。不採算事業の再構築も進展

前中期経営計画は、長期的な成長を見据えて収益構造の転換を推し進めた期間でした。差異化事業では、芳香族アルデヒドの能力増強とMXDAのオレンジ工場新設に、積極的な投資を実行しました。基盤事業のメタノールは、苦劳しましたがトリニダード・トバゴの製造プラントを立ち上げ、世界4拠点での安定供給の基盤を強化できたことが、重要な成果です。また、環境循環型プラットフォームとして関心が寄せられる「Carbopath™」は、商用化に向けた第一フェーズが順調に推移しています。

不採算事業の再構築も進めました。ホルマリン・ポリオール系事業は、ホルマリンの国内2工場及び連産品のパラホルムなどの生産を停止し、一方でM&Aも活用して、川下製品である接着剤までの一貫体制を構築することに

より、収益性が向上しました。キシレン分離／誘導品事業は、オルソキシレンと連産品である無水フタル酸の生産を、2025年1月を目途に停止します。無水フタル酸の製造工程で生じる反応熱は、回収して水島工場で利用してきたのですが、工場内のエネルギーバランスを調整することで解決を図ります。このように、化学品はプロダクトチェーンの一部を止めると全体のバランスが崩れるため、トランジションの期間が必要ですが、事業再構築を常に意識して上手く着地させる必要があると認識しています。不採算が続く高純度イソフタル酸(PIA)の今後は、同じくメタキシレンを原料とするMXDAの成長が鍵を握っています。PIAへの依存度を相対的に減らすことができれば、キシレン事業全体の収益力は相当高められると考えています。

生産活動をDXで強靱化。ライフサイエンス関連製品の事業化にも注力

「Grow UP 2026」では、過去3年間で実行した投資を確実に回収するとともに、DXによって生産活動の強靱化を果たしていきます。柔軟な生産活動を実現することができれば、連産品の切り離しなど、事業ポートフォリオ改革に大きく寄与することができるはずです。更に、研究開発を続けてきたライフサイエンス事業も、用途開拓が進みつつあります。また、抗体医薬CDMO事業で製造実績が積み上がってきており、この数年間で本格事業化の目処をつけたいと考えています。

なお、2024年4月より、「基礎化学品事業部門」の部門名称を「グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門」としました。この改称により、部門の方向性やグリーン化への本気度を社内外に示すことで、共創するパートナーとして選ばれた存在になることを目指しています。

カーボンニュートラルの実現は、化学メーカーにとってチャレンジングな目標です。幸い、天然ガス開発に端を発する当社グループには、長年培った有形・無形のリソースがあり、CCS(CO₂回収・地下貯留)やCCU(CO₂を回収し資源として利用する技術)について具体的な解決策を提示できる立場にあります。ただし、カーボンニュートラルに資する事業の進め方は、従来の「作って売る」ビジネスとは異なるアプローチが求められます。業界の垣根を越え、政府や自治体とも連携したビジネススキームなどを、走りながら考えていく必要があります。様々な課題をクリアしながらスキームを組み上げていく過程は、クイズを解く感覚と似ています。従業員が楽しみながら知恵を出し合い、事業性を磨き上げる組織づくりに努めています。

基本情報

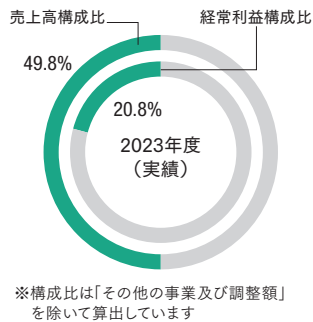
事業内容：天然ガス系化学品、キシレン系化学品、エネルギー資源・環境、ライフサイエンス

主なグループ会社：

(株)日本ファインケム、MGCターミナル(株)、(株)東邦アーステック、日本ユビカ(株)、MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.、三菱ガス化学トレーディング(株)、MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.、MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.、MGCエネルギー(株)、MGCウッドケム(株)、国華産業(株)、日本・サウジアラビアメタノール(株)、METANOL DE ORIENTE, METOR, S.A.、BRUNEI METHANOL COMPANY SDN. BHD.、日本トリニダードメタノール(株)、湯沢地熱(株)、(株)JSP

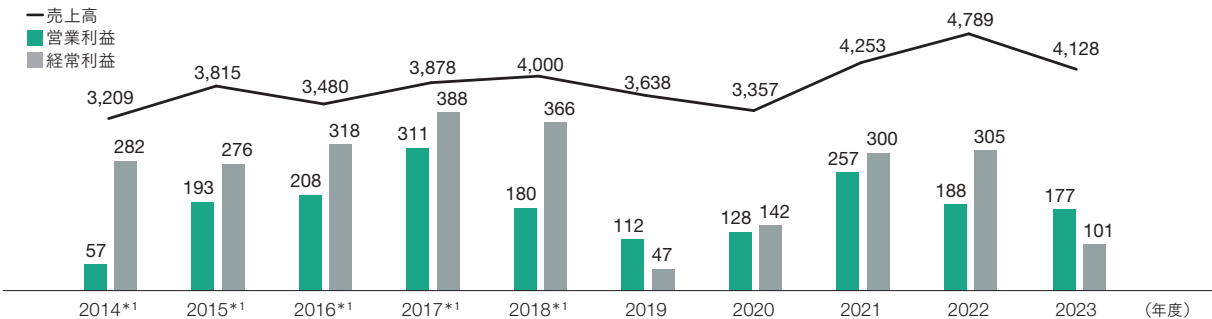
従業員数：2,592名

売上高・経常利益構成比

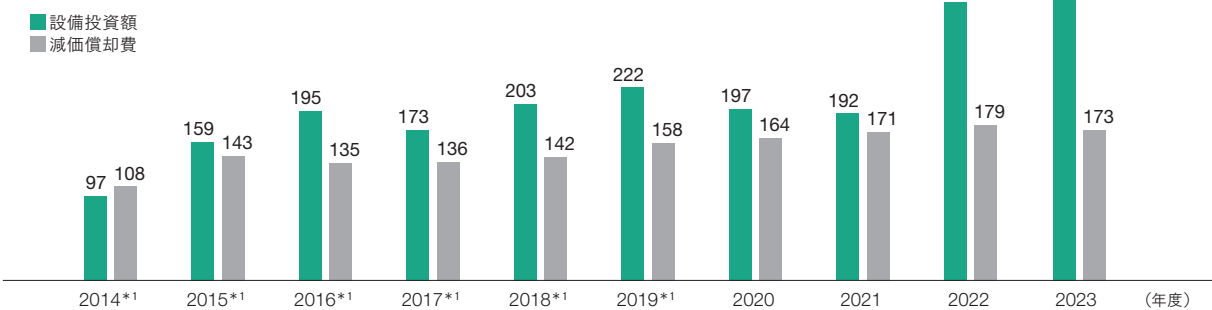


グリーン・エネルギー＆ケミカル事業の業績推移

売上高／営業利益／経常利益 (億円)



設備投資額／減価償却費 (億円)



*1 旧セグメント (天然ガス系化学品／芳香族化学品) の合計値

前中期経営計画の振り返り

差異化事業	MXDA／芳香族アルデヒド	最終年度は欧米景気回復の遅れにより需要低迷。需要回復に備えてMXDA欧州プロジェクト・芳香族アルデヒドの能力増強を推進
基盤事業	エネルギー資源・環境	CCS及び再エネ事業化検討を推進。ヨウ素市況上昇や、エネルギー価格の高騰等により計画達成、差異化事業へ移行
	メタノール	環境循環型プラットフォーム「Carbopath™」の構築を推進。サプライチェーンの効率化等により営業利益創出力が高まり、差異化事業へ移行
不採算・要再構築事業	ホルマリン・ポリオール系	生産拠点集約等の構造改革が奏功し、基盤事業に移行
	キシレン分離／誘導品	オルソキシレンチェーンからの撤退を決定。PIA*2は厳しい市場環境下で不採算な状況が継続。新中計で重点管理事業へ位置付け

*2 高純度イソフタル酸

グリーン・エネルギー&ケミカル事業 全体戦略

2030年を見据えた価値向上のシナリオ

- ・U&P事業として大規模な投資を行ったMXDA、芳香族アルデヒド事業等の拡販を実行し、着実に投資回収を行い、利益最大化を図る。
- ・重点管理事業は各種コストを削減し、バランスシートのスリム化等を推進することにより、事業環境の変化へのレジリエンスを強化する。
- ・カーボンニュートラル実現に向けた新たな取り組みとしてメタノール等の主原料を低炭素化し、再価値付けした形で事業展開する。

「Grow UP 2026」計数目標

売上高	営業利益	経常利益	EBITDA
3,500億円	220億円	320億円	520億円

「Grow UP 2026」の製品群分類とアクションプラン

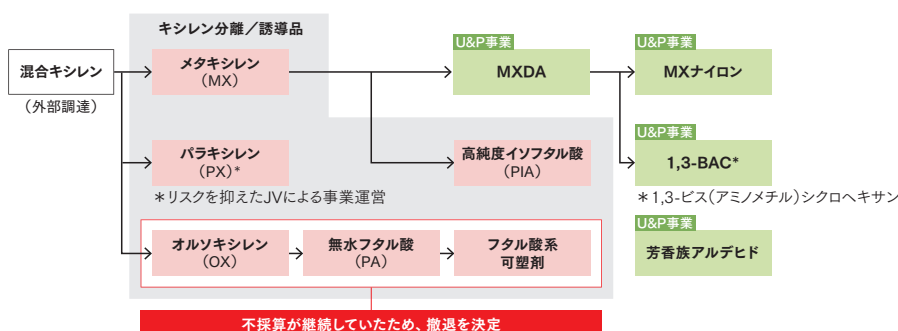
事業区分	製品群分類	主なアクションプラン
Uniqueness & Presence事業	MXDA	欧州新プラントの確実な立ち上げにより投資の成果を刈り取る。
	芳香族アルデヒド	用途拡大により需要の伸長を図る。
	MXナイロン	食品包装材料用途向け販売を拡大し、事業を通じた環境問題への対応を推進する。
	メタノール	ブルー／バイオメタノールの生産販売を開始し、環境循環型メタノール「Carbopath™」の市場を創出する。
	エネルギー資源・環境事業	CCS事業の創出、グループでの水溶性天然ガス／ヨウ素増産、再エネ拡充を推進する。
基盤事業	アンモニア・アミン類	クリーンアンモニア事業の事業拡大。
	MMA系製品	川下製品を含めたMMAチェーン全体の利益最大化を図る。
	ホルマリン・ポリオール系製品	適切な事業運営方法を検討し、収益性の向上を図る。
新規・次世代事業（主な開発品）	炭素繊維複合材料	ガスバリア性等の特徴を持つ複合材料中間体を開発し、様々な用途に提案する。
	抗体医薬品受託製造事業	医薬品製造業許可を取得し、GMP体制 ^{*3} の下、製造実績を蓄積する。
重点管理事業	キシレン分離／誘導品	更なるコストダウンを推進し、川下のU&P事業を支えるインフラとなる。

*3 医薬品の品質を確保するために製造業者・製造販売業者に求められる適正製造規範

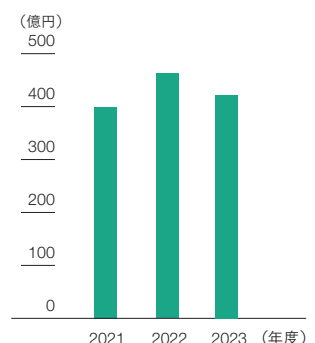
重点管理事業の戦略

現状認識	「Grow UP 2026」における戦略
・PIAは供給過剰の厳しい事業環境が継続 ・不採算であったOX系チェーン（OX-PA-可塑剤）からの撤退を決定	・MX-PIA：川下のMXDA等を支えるインフラ的位置付け ・更なるコストダウンの推進 ・今後の生産継続については、川下製品の成長に合わせて判断

キシレン分離／誘導品のプロダクトチェーン



U&P事業* 売上高推移



*左記4事業合計

MXDA

欧州での新工場は、2024年度下期に稼働予定。 生産・販売を担う人材育成にも注力

佐藤 正敏 — MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V. Managing Director



2024年度下期より、オランダのロッテルダムでMXDAの新プラントを稼働させる予定です。MXDAの最大需要地である欧州で操業することに、大きな意義があります。この新プラントの建設期間は、コロナ禍後の欧州経済の急反発や、ロシアのウクライナ侵攻による未曾有の物価高騰が進む時期と重なりました。人材・建材の不足と、それらに起因する工事関連業者の倒産など、多くの困難に見舞われましたが、現地ゼネコンの協力の下で、運転開始の目処が付きました。

欧州市場では、既存の大口需要家からの安定したオーダーが見込めますが、この優位なポジションに安住するつもりはありません。私たちは現在、風力発電機用材料やCO₂吸収剤など、環境保全に貢献できる化学品への応用研究を進めています。常に新たな用途開発を行い、顧客ニーズに応じていくことが、持続的な成長の条件になります。

新プラントに関しては、マザープラントである水島工場、及び新潟工場との技術連携を深めながら、まずは装置の安定操業を目指します。今後は、MXDAの生産・販売に関わる人材の育成にも力を注いでいきます。当社グループが蓄積してきた、MXDAの知識や経験に基づいた業務スキルを次の世代へ継承していくのも、私の責務の一つだと考えています。



芳香族アルデヒド

拡大する需要を取り込みながら、新規製造設備の稼働率を上げ、定量目標の達成を目指す

久保 治也 — ハイパフォーマンスプロダクツ事業部 HPケミカル部長



当社が芳香族アルデヒド製品を手掛けるようになった契機は、1981年にポリエステル原料を製造するために、水島工場にパタールアルデヒドのパイロットプラントを建設したことでした。1985年には、自社製品の原料製造のために大型の量産設備を建設しています。2000～2010年代にかけては、主に樹脂添加剤向けの製品として成長が続ききました。1991年には2基目の量産設備を建設し、新規の香料や医薬品原料向けの品種が加わりました。2023年には生産能力増強のために、3基目となる量産設備の運転を開始しています。

直近2年間の物価高などにより、需要が低下していた樹脂添加剤用途は、ようやく回復の兆しが見えてきました。一方、香料用途はコロナ禍以降の衛生意識の高まりによって、需要が拡大しています。「Grow UP 2026」の3か年は、定量目標に沿って拡販を進めることで新規製造設備の稼働率を上げ、目標達成を優先していきます。

芳香族アルデヒド製品は、現状では欧米をはじめとする輸出が圧倒的に多く、将来的には事業基盤強化のために、海外企業とのパートナーシップ構築が必然だと捉えています。そして、その橋渡しをするのが私の役目だと考えています。

主な用途と使用例

用途	使用例
香料	香水、石けん、洗剤、芳香剤など
樹脂添加剤	ポリプロピレン(PP)の白濁を抑える添加剤
医薬品	除草剤、糖尿病治療薬など
顔料	自動車用塗料など